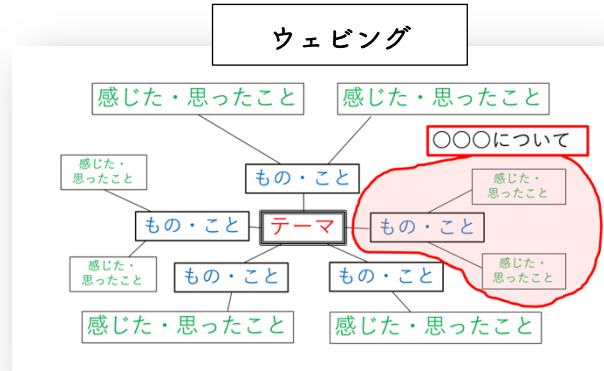
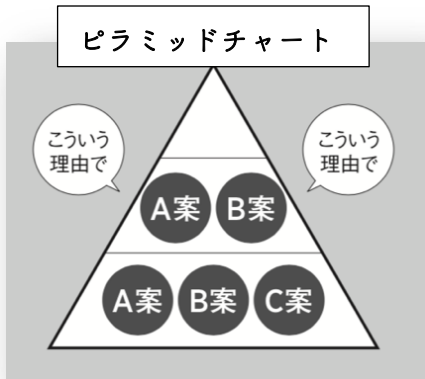


小針小学校版 探究で使える！！

思考過程が見える思考ツール

<紹介する思考ツール>



ランキングシート

Q.お祭りで何を売る？

1	わたあめ :
2	りんごあめ : :
3	やきそば : :

メリット・デメリット

メリット	デメリット
○	△
○	△
○	△
○	
○	

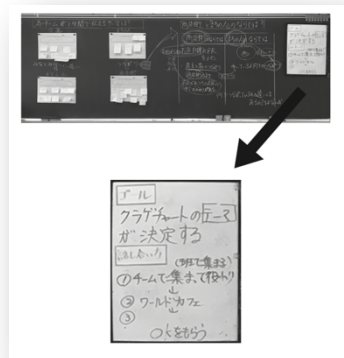
【結論】
 ○〇は～～なので、やることにする。

PMI シート

Plus	Minus	Improvement
(プラスのこと)	(マイナスのこと)	(改善したいこと)
◎	△	◇だから ～～したい。
◎	△	→ ◇～～ するとよい。
◎	△	
◎	△	

～思考ツールを子供たちと使う前に～

- まずは、先生が事前に使ってみましょう。
- 本当に必要なものを授業で使うようにしましょう。
 (「思考の流れ」と「思考ツール」がずれないように。)
- 子供が使っている思考ツールと板書で使う思考ツールは同一のものになるようにしましょう。(子供が混乱しないように)
- 「話し合いのゴールとプロセスの決定」をしましょう。
 (子供たちが自ら、思考ツールを選び取ることを目指します)
 - (1) 今日の話し合いのゴール
 - (2) そのためにどんな話し合いをしたらよいか
 を決めます。



～ピラミッドチャート編～

①どんな場面（課題）で

<多くのアイデアから、条件を満たす（クリアできる）ものを選び抜く>

例：お楽しみ会で、どの遊びをするのか決めよう（学活）

例：お米の魅力を広めるための食品は、どれがいいのだろうか（総合）

②事前の準備

<先生>

- ・絞っていく際にどんな条件が必要かを必ず事前に想定しておく。
- ・課題を明確に子供たちと設定し、どんな情報を事前に集めればよいかを明示する。

<子供>

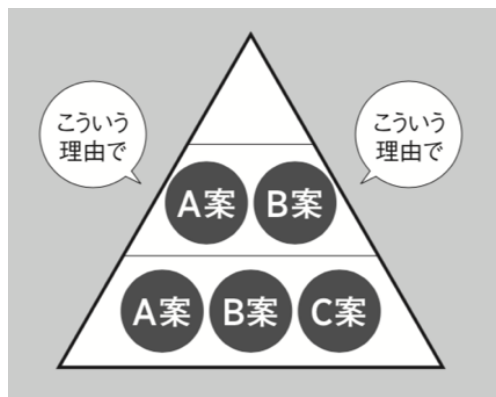
- ・事前に書籍等を調べたり、インタビュー等をしたりして個人として課題（目的）を十分に満たすものだと考えるものを集めておく。

③実際の授業での活用場面（1時間の授業）

- （1）課題の確認、話し合いのゴールとプロセスの決定。
- （2）3～4人のグループでピラミッドチャートを活用する。
- （3）全体での共有
 - ・グループごとに発表する or 他のワールドカフェ的な手法で他のグループの成果を見て回る。

④活用のポイント

- ・条件は、クリアできるかどうかができるだけはっきりとわかるものにする。
 - 例 × 楽しむことができる
 - クラスの全員が楽しむことができる
- ・子供たちと共に、ピラミッドチャートで設定する条件も話し合っておけるとよい。
- ・1つのアイデアを上にあげるときは、話し合いに参加している全員が納得しているものだけにする。
- ・根拠をはっきりとさせ、グループの思考の流れの足跡を残すために上にあげたものは、吹き出しでどうして上にあげたのかを記録する。



～ウェビング編～

①どんな場面（課題）で

＜テーマについて自分の発想を自由に広げ、興味・関心の高いものを見つける＞

例：夏を感じるものやことをテーマに俳句をつくろう（国語）

例：これまでにどんな総合の学習を経験したり、見たりしたことがあるだろうか（総合）

②事前の準備

＜先生＞

- ・ウェビングを行う上で実際にどのように発想を広げていけばよいか、黒板にクラスの全員で一度、同テーマでウェビングを試しに行なってみる。

＜子供＞

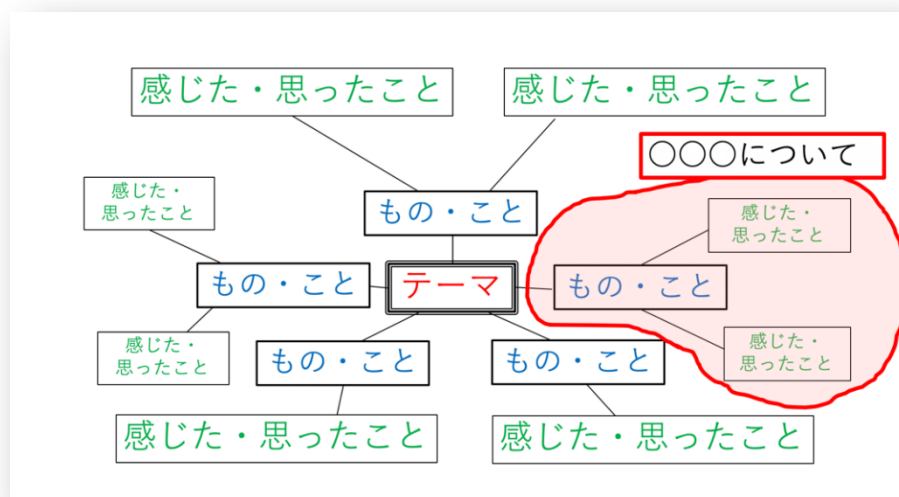
- ・必要があれば事前に書籍等でテーマに関わる情報を集めておく。

③実際の授業での活用場面（1時間の授業）

- （1）課題の確認、話し合いのゴールとプロセスの決定。
- （2）個人または3～4人のグループでウェビングを行う。
- （3）ウェビングで広げた情報から、本当に必要なものや次の学習で活用したいものを色で囲む。

④活用のポイント

- ・「こんなのだめかな」という発想もすべて書いてみて、情報が出揃った場面で判断する。
- ・ウェビングは、個人で行なっても、グループで行なってもよい。（課題によって判断）
- ・近くの友達と話し合ったり、お互いのウェビングを見合ったりしながらアイデアを広げていってよい。
- ・広げっぱなしではなく、ピラミッドチャートで広げた情報の中から、次の学習活動で使えるようなものについて色を変えて囲んだり、吹き出しを使ったりして選択する。
- ・テーマの周りには「もの・こと」を書き、そこから派生して「感じたこと・思ったこと」を広げていくようにする。



～ランキングシート編～

① どんな場面（課題）で

<集めた情報について、根拠を明らかにして順序を付ける>

例：私たちが取り組むべき、ゴミを減らす方法はどれだろう？（社会）

例：音楽会で発表する歌は、どれがよいのだろう？（学活）

②事前の準備

<先生>

- ・事前集めた個別のこと・ものに関わる疑問を子供たちと共に明らかにしておく。
- ・個別のこと・ものを選んだ場合の今後の活動の見通しを子供と共に明らかにしておく。

<子供>

- ・事前にウェビング等を活用して、選択に値する個別のこと・ものは出し切っておく。

③実際の授業での活用場面（1時間の授業）

- (1) 課題の確認、話し合いのゴールとプロセスの決定。
- (2) ウェビング等で広げた複数のアイディアから個人でまず3つ選び出す。次に、それぞれを選んだ根拠を記入する。
- (3) 個人で順位付けを行う。

④活用のポイント

- ・集団（クラス）で何かを決める場面ではなく、個人で選択する場面で用いる。
- ・ウェビング等で拡散的に出した多くの情報から、まずは3つを選び出す。その3つについて、根拠を記入した上で、最後に順位を付ける。
- ・いくつか根拠を書き入れているうちに頭の中が整理され、順位付けしたくなる子供にも出てくる。その場合には、無理にすべて根拠を書き出させなくてもよい。

Q.お祭りで何を売る？

1	わたあめ
	：
2	りんごあめ
	：
3	やきそば
	：

～PMIシート編～

② どんな場面（課題）で

＜自分たちで行なった取り組みを評価する＞

例：自分たちのイベントはまちの人に喜んでもらったのだろうか？（総合）

例：学級目標の達成に向けた一ヶ月の取り組みを振り返ろう（学活）

②事前の準備

＜先生＞

- ・子供たちが個人で書き込んだPMIシートに事前に目を通しておき、焦点化すべき課題を事前にいくつか想定しておく。

＜子供＞

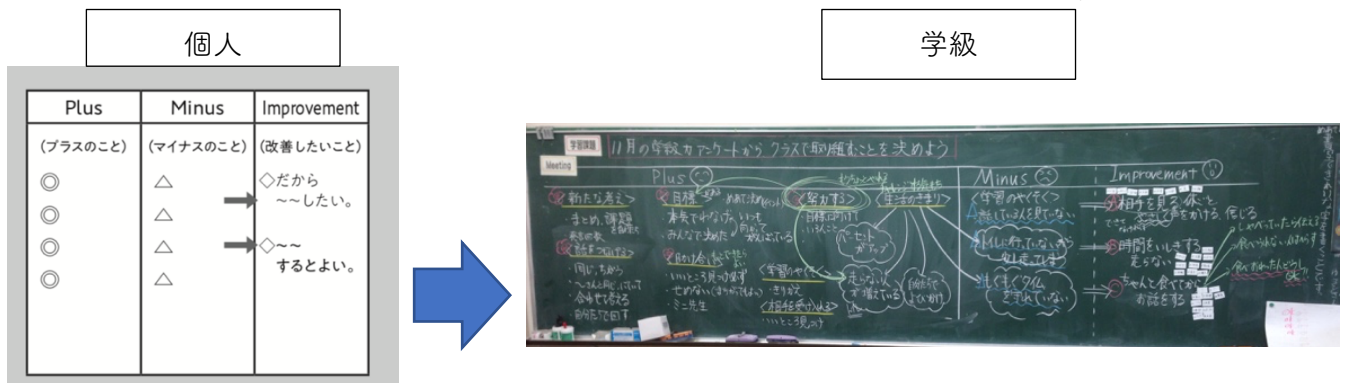
- ・PMIシートに自分たちで行なった取り組みについてP（プラスのこと）、M（マイナスのこと）、I（改善したいこと）の視点で記入しておく。

③実際の授業での活用場面（1時間の授業）

- （1）課題の確認、話し合いのゴールとプロセスの決定。
- （2）P（プラスのこと）を出し合う。次にM（マイナスのこと）、I（改善したいこと）の視点で考えを出し合う。
- （3）個々のアイデアとして出された改善点を俯瞰し、焦点化すべき課題について全体で話し合う。

④活用のポイント

- ・一人ひとりがPMIシートを使って事前に評価したものをもとに、学級全体で話し合う。
- ・「話し合いのゴールとプロセス」を子供と決定する際に、PとMとIを順番に話していくか、混ぜて話すかを決定する。（オススメは、Plusを話し合った後に、MinusとImprovementを合わせて話していく流れ）
- ・Minusで「～がまだできていなかった」、だからImprovementで「～をしたほうがよいと思う」というように、建設的な話し合いになるようにする。
- ・板書で全体の傾向を明らかにしてから、個人で取り組みたいことをImprovementからマグネットで選択したり、学級としての取り組みについて話し合ったりする。



～メリット・デメリット編～

①どんな場面（課題）で

<1つのもの・ことに対するメリットとデメリットを明らかにして、結論を導き出す>

例：日本が鎖国を続けたことによるメリットとデメリットを明らかにしよう（社会）

例：私たちが清掃活動に取り組むことは本当に地域の役に立っているのか（総合）

②事前の準備

<先生>

- ・ウェビング、PMIシート、ピラミッドチャート等で子供たちが事前に情報を十分に共有した後で、メリット・デメリット表を使うことができるようにどの話題に論点が焦点化されるか予想しておく。

<子供>

- ・（授業の流れによっては）事前に個人でメリット・デメリット表を使って、もの・ことの分析をしておく。

③実際の授業での活用場面（1時間の授業）

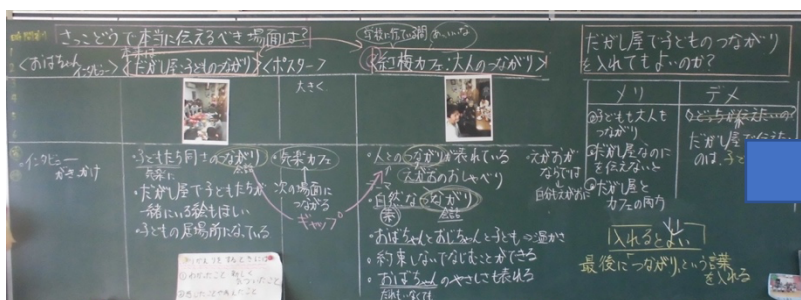
- （1）課題の確認、話し合いのゴールとプロセスの決定。
- （2）ウェビング等を使って、本時の課題について話し合い、論点を明らかにする。
- （3）3～4人のグループで、焦点化された論点についてのメリットを出し合う。次にデメリットを出し合う。その結果を踏まえて、判断をする。
- （4）各グループの考えをワールドカフェ的な手法で共有する。
- （5）クラス全体で、グループの考えをもとに結論を出す。

④活用のポイント

- ・十分に本時の課題について話し合い、論点が焦点化された上で、ある1つのもの・ことについてメリット・デメリットについて分析する際に活用する。
- ・3～4人のグループで、意見を出し合いながら活用する。
- ・判断する時の視点としてまずは、○と△の数を基準としてもよい。学年が上がるにつて、1つ1つの意見の質的な重みを考慮して、結論を導きだせるとよい。

学級

グループ



メリット	デメリット
○	△
○	△
○	△
○	
○	
○	
【結論】	
○○は～～なので、やることにする。	